

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503643		
法人名	いーとも 有限会社		
事業所名	グループホーム グリンピュア あすなる		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2730番地		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	平成25年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成24年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな静かな環境の中にあり、春には桜の下でお花見をしたり、秋には栗拾いをして栗ごはんを作ったり、柿を取っておやつに食べたり、立地を生かした取り組みをしています。料理も手作りで提供しており、お誕生日会には、ちらし寿司を作ってお祝いしたりして、食べる楽しさを感じて頂けるよう取り組んでいます。敷地内が広く、天気の良い日には散歩を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の北部に位置し、静かな田園地帯の中にあり、四季折々の季節を感じる事が出来る環境である。共有空間も家庭的で落ち着いて過ごせる雰囲気である。家族との信頼関係が築かれ訪問も多く、協力を得ながら、利用者の視点に立ったケアに努め一人ひとりの想いに添う様努めている。少し遠出の外出にも出かけ、気晴らしや五感刺激となる楽しみごとの支援や天候の良い日には事業所の周りを散歩する事を日課とし、機能維持に努められている。ホーム長をはじめ、職員が利用者一人ひとりに合ったケアに心掛け共に支え合いながら一日を楽しく過ごしてもらい様努められている。地域との関わりを多く持ち地域貢献に努められ、地域に根付いた事業所となる事に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で、毎朝唱和をし、意識していけるよう取り組んでいる。	法人の基本理念を毎朝唱和し、意識付けをされ、実践に繋げる様周知されている。	法人理念を基に、地域密着型サービスとして、現状に即した独自の理念を全職員で作られ、共有して実践に繋げていく取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、溝清掃等に参加している。	町内会に加入し、地域行事(清掃活動等)に地域の一員として参加している。また、散歩時等にも挨拶を通し近隣の方々との関わりが持てる様取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症の特性やグループホームでの取り組みなどお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月に1度の割合で開催している。会議では状況を知らせると共に、意見を広く求めてサービスの向上に努めている。	定期的開催し、家族、民生、自治会長、行政担当者、包括支援センター等の参加により、利用状況や現状について伝え、質疑応答を行う中で、各出席者全員から質問や意見、要望を受け、それらをサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の方や地域包括支援センターの方に参加して頂き、意見や協力をしていただくようにしている。	運営推進会議に行政担当者の参加があり、実情については、毎回伝え情報提供やアドバイスは得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を職員、利用者の目のつく所へ掲げ、身体拘束ゼロの手引きを参照し、スタッフ全員が理解し取り組んでいる。	玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。身体拘束をしないケアについて全職員が理解し、見守り対応されている。カンファレンスやミーティングでもケア方法について話し合う機会を持ち、拘束しないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて、高齢者虐待防止の再確認をしており、互いに見過ごされることのないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、研修にて学んでいるが、職員に浸透していないので、今後取り組んでいくようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書に基づき説明を行ない、疑問点も聞き納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、気軽に要望が言えるように努めている。苦情や要望が言えるような関わりを心掛けている。	家族の訪問も多く、その時々訪問時に聞き取るようにしている。その中での意見や要望、相談ごと等についてはその都度、職員に伝え全員で検討し、個々に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングの機会を設け、職員の意見交流の場とし、改善に努めている。	ミーティングやカンファレンス等で聞き取るようにし、その中での意見や提案については全員で検討し反映させている。日ごろから、思いがあればホーム長や先輩職員に気軽に伝えられる雰囲気づくりも出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価もまだ行っていないため、反省点や目標を立て、向上心が持てるように今後行っていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による入社時の新人研修、月に1回のスキルアップ研修、資格別グループミーティングに参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流はしているが、同業者との交流は出来ていないため、今後の課題として取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった後、必ず事前に本人にお会いし確認をしている。本人から聞き出せない時は、関係者からの意見を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際に、出来るだけ見学に来て頂き、本人の思いや願い、困っている事や不安に思っている事など話を聞く機会を作り、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が何を一番求めているかを理解し、その要望に沿った支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、余暇活動と一緒にを行い、出来ることは継続してできるよう、寄り添った支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との関係が絶えない様に、お話しや相談を行い、共に支えるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親戚や知り合いの方が気軽に訪ねてきやすい雰囲気作りに努力している。	親戚や知人の方が来られたり家族の協力で自宅に帰られる事もある。また、家族との交換ノートも作られている。常に気軽に訪問してもらえる様な雰囲気づくりに努め、関係が希薄にならない様支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中やレクリエーションでともに行える場面を作るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの家族との絆を大切にし、必要に応じてフォローすることに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き出しが難しい場合には、表情やしぐさを観察し心の声に耳を傾けるように努めている。	自ら言われる方もおられるが、日々の会話や1対1の入浴時の話の中から把握することが多く、それぞれの想いは全職員で共有しケアプランに反映させ対応されている。困難な方には表情や行動から把握し想いに添う様務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前の利用施設や担当の方に情報を頂いたり、面会時や電話等でご家族へこれまでの生活歴をお聞きたり、ご本人との会話の中から聞き出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を観察し、出来ることと出来ない事を職員同士で共有するように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で、家族様に意向や本人様の意向を踏まえ、ニーズとケア内容を話し合い介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、担当者会議で家族や職員の意見を反映させた利用者本位の介護計画を作成されている。作成された計画は家族の承諾と全職員にも周知している。見直しは定期的に行い、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し、毎日、申し送りを行ない情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況に合わせ、かかりつけ医への受診の付き添いを行ったり、柔軟対応ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、関係機関と協力し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、家族の状況に合わせ、かかりつけ医への受診の付き添いを行っている。	本人、家族の希望に応じた対応で柔軟な受診支援をされている。受診結果に関する共有も出来ている。他科については家族同行となり、歯科は訪問歯科で対応されている。協力医療機関との連携が図られ夜間対応の体制も確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は普段の観察で気付きや状態変化を看護職に相談して適切な受診ができる様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人と家族の意向を医師に伝え、随時連絡を取ります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を立て、契約時より話し合いを行っている。医療に関して出来ないことも多々あるため、説明を行い、医療機関との連携に努めている。	重度化や終末期に向けての指針を作成し、利用開始時、事業所として出来る事と出来ない事を十分説明され、本人家族の希望を大切に、状況に合わせ、医療機関と連携、職員との方針の共有を図りながら対応していく様務めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、職員間でシュミレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災・避難訓練を行うと共に地域の方の協力を得る為の働きもしている。	地域の方にも参加してもらい、防災、避難訓練を実施すると共に常に協力の働きかけを行い、協力体制強化に努めている。又、訓練に参加出来なかった職員に対しては資料を基に一人ひとりが確認するよう徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対しては、もう少し工夫が足りない。	利用者の気持ちになって接する様心掛けています。	馴れ合いの中でも本人の尊厳を大切にしたい対応を全職員が共有し日常的に職員間で確認し合うと共にプライバシー、個人情報等の研修を実施し、プライバシーの確保を徹底していく取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り、本人様の希望等お聞きしている。又、表情などでなにを希望されているか気づけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な生活ができる様、一人ひとりのペースに沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の割合で散髪にお連れしたり、外出が難しい方は、定期的に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに合わせて、食事を提供し、職員も一緒に食べるようにしている。	職員と一緒に同じ物を同じテーブルで、食材の話や食を促す声かけをしながら楽しみの食事時間となっていた。個々の持てる力を発揮できる場面作りをし見守りしながら出来る事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は必ず記録し、摂取量の把握に努めている。状態に合わせた食事形態にしお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア行っているが自力で出来ない方や十分な口腔ケアが出来ていない方は職員が援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの誘導を行ない、記録に残し排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄パターンで把握すると共に表情や行動からも察知し、個々に合わせた時間帯でさりげなく声かけし、プライバシーに配慮した対応でトイレ誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、便秘にならないように食物繊維の多い食材を使ったメニュー作りに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に午後から入浴を行っている。一人ひとりのその日の体調に合わせた入浴ができるよう心掛けている。	身体状況を見ながら、一人ひとりの希望を聞き対応されている。希望があれば毎日でも入浴できる体制となっている。足浴で対応する場合もあり、一人ひとりに合わせた入浴支援に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、一人ひとりの今までの生活習慣に沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用には注意し、服薬情報は個人記録に綴るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、折り紙、編み物等、一人ひとりの出来ることを把握し、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、外食、受診、散歩、ドライブなど必要に応じて、関係者の方の協力の下、おこなっている。	遠出のドライブ(井原の嫁いらず観音、三和の道の駅)まで行く事もあり楽しみの支援や気分転換を図る取り組みをされている。希望により買い物等にも出かけている。天候が良ければ散歩も日課としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に合わせた金銭管理ができるよう、家族の方と相談しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をしたいとの申し出があった時は、電話をかけたり、又、手紙のやり取りも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は室温を一定に保ち整理整頓に注意して動きやすいようにしている。季節感のある貼り絵や置ける位置には花等を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	玄関やリビングも広く、季節を感じる装飾品もあり、明るく、清潔に保たれ、嫌な臭いや音もなく、食事を作る音、匂いが感じられ生活感のある共有空間で穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを用意し、気の合う利用者と一緒に座って談笑できる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、家で使用していたものを出来るだけ持って来ていただき、落ち着いて過ごせる環境が作れるように工夫している。	馴染の物や思い出の写真などが飾られ、自宅での生活を崩さない雰囲気ですぐやかに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレと明記し、居室には表札を付け、部屋を間違えないようにしている。		